

市政フラッシュ

消防大会開催 地域消防力の向上を誓う

市消防団は4月3日、和田山ジュピターホールで朝来市消防大会を開催し、約600人が参加しました。

この大会は、消防意識の高揚や団結、活性化を図るため毎年開催されているもの。式では、石原団長が「近年の災害は複雑・多様化している。あらゆる災害に対応するため消防力を一層強化してほしい」と団員に訓示しました。その後、新入団員の任命や消防活動などに功績のあった団員・家族に表彰状や感謝状などを伝達しました。



今年度は新たに50人の団員が加わりました

和田山中体育館が完成

市立和田山中学校の屋内運動場(体育館)の改築が3月25日に完了しました。

総額約4億8千万円をかけて完成した体育館は、鉄骨鉄筋コンクリート2階建て、延べ床面積は2,023㎡。1階のアリーナ面積は1,116㎡で南但馬では最大の体育館となりました。和田山中2年の垣尾舟汰(かきゐふな)さんは「新築の匂いがして、フロアもきれいで使いやすい。新しくなったこの大きな体育館で部活動をがんばりたいです」と話しました。



1階にはステージや会議室、2階には卓球場などが完備

我がまち朝来 再発見

第42回

播但線と青倉駅

播但線の歴史

明治20年(1887)11月、地元の有力者であった内藤利八・浅田貞次郎らは、生野から飾磨に至る馬車鉄道の敷設を兵庫県に出願しました。これは明治9年に整備された生野・鉱山寮馬車道(銀の馬車道)に変わる輸送手段として計画されたものでした。その後、同年10月動力を馬から蒸気に変更することとして政府に改めて出願。社名を播但鉄道とし、明治26年(1893)6月30日に免許状が交付されました。

明治27年(1894)7月、まず姫路〜寺前間が開業し、翌年4月には、飾磨〜生野ま

で延伸しました。

明治34年(1901)8月、ようやく生野から新井まで延伸するも、結局明治36年(1903)にはその経営の不振から山陽鉄道に買収され、同社の「播但線」となりました。その後明治39年(1906)には和田山に延伸しました(4月1日和田山駅及び竹田駅開業)。

明治39年(1906)、鉄道国有法に基づき山陽鉄道は国有化されました。その後明治42年(1909)の国有鉄道線路名称制定で、播但線の名が正式に制定され、現在に至っています。



青倉駅落成式の様子(「朝来町史下巻」から転載)